

早く行きたいアベノミクスの向こう側

—取戻したが病につける薬は？—

同志社大学大学院教授
浜 はま
矩 のり
子 こ

- * サッチャー政権の末期に似てきた
- * 取戻したが病の恐ろしさ
- * 強い日本を取り戻すということ
- * 国家と国民の関係が逆転
- * うさん臭い地方創生と女性活用
- * 日本は壊れたホットプレート状態
- * 異次元緩和で日本はミイラ化する
- * 最大の課題は貧困問題の解決
- * 矩を踏えてはならない経済活動
- * 自国の通貨の価値を下げる愚行



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今年も大分押し迫ってまいりましたが、毎年東洋経済から出ています浜先生と高橋先生のご本も発売になりました、たいへん出足がいいようでございます。少し先の、あまり知りたくない真実かもしれませんが、そういうお話もちやんと書いてありますので、是非、お帰りにでもお買い求めいただきたいと思えます。

アベノミクスも2年近く経過いたしました、いろいろほころびが見え、浜先生がここ2年ほどいつも強調されてきたとおりの状況です。今日はそのあたりをもう一度読み解いていただき、先行きどうしたらいいかについてもお話しいただけると思えます。それでは先生、よろしくお願ひいたします。（拍手）

浜 またこの場で皆様とお目にかかることができ、幸せなことだと感じております。

そこで本日は、「早く行きたいアベノミクスの向こう側」取戻したが病につける薬は？という演題でお話をさせていただくわけです。今回タイトルはどうしますかと言われて決めさせていただいたのが、実は10月の頭の辺だったと思えます。そのときには「早く行きたいアベノミクスの向こう側」と言っていたのですが、より正確には「早く行きたいアホノミクスの向こう側」です。（笑）今日のタイトルも、気にすることなくずばり「早く行きたいアホノミクスの向こう側」にしておけばよかったなどちよっと反省していますが、いづれせよ、早く向こう側に行きたいということを10月の頭に言